

J Aバンク新潟における地域密着型金融の取組状況（平成 26 年度）

J Aバンク新潟（県下 J Aと新潟県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、「J Aバンク新潟中期戦略（平成 25 年度～平成 27 年度）」に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

平成 26 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、お知らせいたします。

＜目 次＞

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援	・ ・ ・ ・ ・ P 2
2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援	・ ・ ・ ・ ・ P 4
3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供	・ ・ ・ ・ ・ P 6
4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献	・ ・ ・ ・ ・ P 7

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

J Aバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成 27 年 3 月末時点の J Aバンク新潟の農業関係資金残高^(注 1)は 79,024 百万円(うち農業経営向け貸付金 43,479 百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注 2)残高は 22,601 百万円を取扱っています。

(注 1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

(注 2) J Aバンク新潟が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。受託貸付金残高には、J A転貸分を含みます。

【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

	平成 27 年 3 月末現在
農業	43,479
穀作	21,885
野菜・園芸	3,269
果樹・樹園農業	1,143
工芸作物	294
養豚・肉牛・酪農	1,336
養鶏・鶏卵	207
養蚕	—
その他農業	15,343
農業関連団体等	35,544
合 計	79,024

(注)

1 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

2 「農業関連団体等」には、J Aや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	平成27年3月末現在
プロパー資金	62,132
農業制度資金	16,892
農業近代化資金	5,722
その他制度資金	11,169
合 計	79,024

(注)

1 プロパー資金とは、J Aバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

- 2 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでＪＡバンク新潟が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫等が融資するものがあり、ここでは①③の転貸資金と②を対象としています。
- 3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金（スーパーＳ資金）や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

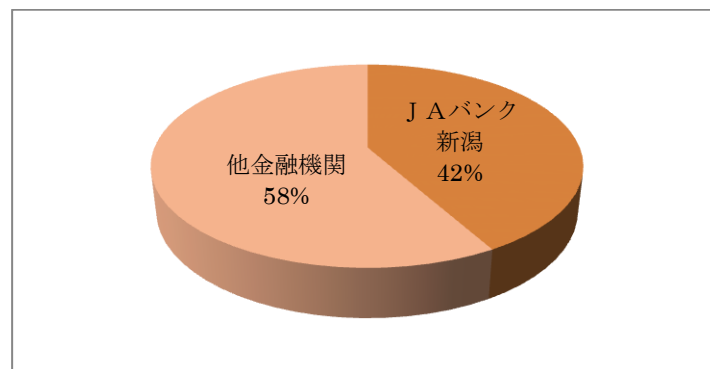
【農業資金の受託貸付金残高】 （単位：百万円）

種 類	平成27年3月末現在
日本政策金融公庫資金	22,599
その他	2
合 計	22,601

（注）ＪＡバンク新潟では、主にＪＡを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

ＪＡバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、日本政策金融公庫資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【新潟県の日本政策金融公庫受託貸付のシェア】 （平成27年3月末）



（２）担い手のニーズに応えるための体制整備

ＪＡバンク新潟では、地域の農業者との関係強化を目的とした体制整備に取り組んでいます。

県内 25 ＪＡでは、担い手への訪問・資金提案活動の中核的に担う「農業融資相談員」をＪＡ本支店に 114 名設置し、そのうち 53 名が「担い手金融リーダー」として農業融資の実務リーダーとしての業務を担っています。

当会では、農業部を中心に「県域農業金融センター機能」を構築し、ＪＡの指導・サポート機能と農業法人等への融資相談機能を併せ持つことで、一元的な取組みを進めています。ＪＡの体制整備や人材育成を支援するとともに、ＪＡと連携した協調融資などにも取り組んでいます。

また、農業融資相談員等の相談対応力向上を目的に、ＪＡバンク独自の農業融資資格制度である「ＪＡバンク農業金融プランナー」の資格取得を進めており、平成 27 年 3 月末現在では 291 名が取得しています。

(3) J A 内事業間連携の強化

J A では担い手の多様なニーズに応じていくため、信用事業と営農・経済事業等との連携を強化しています。当会では J A 新潟中央会や J A 全農にいがた、J A 共済連新潟とも連携して、営農・経済事業担当者を含めた合同会議や研修会を開催するなど、J A 内における事業間連携の強化を支援しています。

【具体的取組事例】

○ 「第 2 回 J A 担い手支援推進集会」の開催（平成 26 年 11 月実施）

担い手への対応や出向く体制の強化、情報交換を目的に J A 新潟中央会、J A 全農にいがた、J A 共済連新潟と共催で実施しました。

2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

J A バンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取組を行っています。

(1) 新規就農者の支援

J A バンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金などを取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】

(単位：件、百万円)

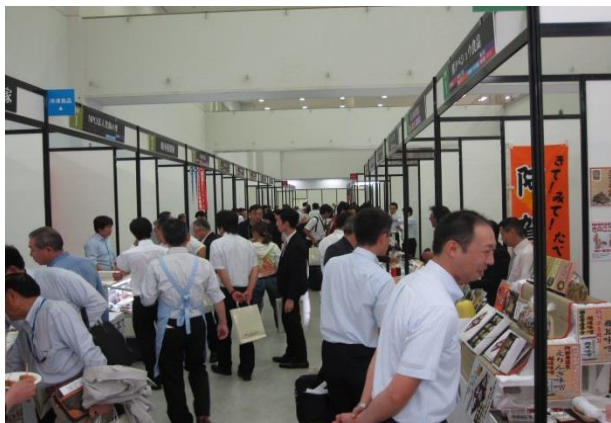
	平成 26 年度 実行件数	平成 26 年度 実行金額	平成 27 年 3 月末残高
青年等就農資金	1	2	2
就農支援資金	4	7	94
新規参入者経営安定対策資金	6	10	19
合 計	11	19	115

(2) 6 次産業化に向けた農商工連携の推進

J A バンク新潟では、J A 新潟中央会、J A 全農にいがたなどと連携し、生産者・J A と加工流通業者との商談会の開催など、6 次産業化に向けた農商工連携に取り組んでいます。

【商談会等開催状況】

商談会名	開催日	主催者	参加団体数	来場者数	内容
うまさぎっしり 新潟食の大商談会	H26. 9. 26	N I C O 新潟県 県内金融機関ほか	111 団体	1, 136 名	2 J A と 8 取引先が出展
情報誌 Sole! にいがた	H22. 7 創刊 年 4 回、 各 21, 000 部発行	新潟県信連			農商工連携を促進する一環として、フリーペーパー形式の情報誌を発行



盛況だった商談会の様子



県内のＪＡ窓口や直売所、道の駅、スーパー等で無償配布しています。

(３) 生産者と消費者をつなげる場の設置

ＪＡバンク新潟は、新潟県生活協同組合連合会、新潟県森林組合連合会、新潟県漁業協同組合連合会、新潟漁業協同組合、新潟県酪農業協同組合連合会、ＪＡ新潟中央会、ＪＡ全農にいがた、ＪＡ共済連新潟との共催により、「第 16 回協同組合まつり」（平成 26 年 10 月 26 日、新潟市産業振興センター）を開催し、4,392 名の方にご来場いただきました。

会場では県内農畜産物等の紹介・直売や県内農産物を材料とした食事の提供、ステージイベント等を実施し、好評を博しました。

(４) ＪＡバンク新潟講演会・セミナー等の開催

ＪＡバンク新潟では、農業者の方を対象とした講演会や、融資先のお取引先や系統団体を招いた情報交換会等を開催し、異業種間の情報交流を促進しています。

【平成 26 年度 講演会・セミナー開催実績】

講演会名	参加対象者	参加団体数	主催者	内容
第 8 回 農業法人経営者セミナー (H27. 2. 10)	県下農業法人 ＪＡ等	111 組織 17 ＪＡ	新潟県信連	第 1 部「農政の転換と担い手育成の重要性」 第 2 部「コメ専業経営が生き残るために必要な 7 つのこと～新潟米における価格下落の予測と対策～」
農家レストラン事業 新規参入セミナー (H27. 3. 2)	県下農業法人 ＪＡ等	15 組織 7 ＪＡ	新潟県信連	「ゼロから始める農家レストラン ～成功のポイント～」
第 27 回 信連融和会定例総会 講演会 (H26. 7. 10)	当会融資 取引先	74 団体	新潟県信連	「感性マーケティング～女心をつかみ、時代の風に乗る脳科学」
平成 26 年度 経済・金融セミナー (H26. 11. 21)	当会融資 取引先	57 団体	新潟県信連	「2015 年の日米経済の見通しについて」

(5) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク新潟では、負債整理資金の対応等にあたり、特別融資制度推進会議を通じて関係機関と協議するなど、農業者の経営再建に向けて取り組んでいます。

【平成 26 年度の農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位：先)

		期初経営 改善支援 取組先 A	Aのうち 再生計画を 策定した 先数 a	Aのうち 期末に債務 者区分がラ ンクアップ した先数 b	Aのうち 期末に債務 者区分が変 化しなかつ た先数 c	事業計画 策定率 = a / A	ランク アップ率 = b / A
正常先①		61	8		6	13.1%	
要 注 意 先	うちその他要注意先②	109	42	17	78	38.5%	15.6%
	うち要管理先③	15	5	5	7	33.3%	33.3%
破綻懸念先④		51	26	2	33	51.0%	3.9%
実質破綻先⑤		68	26	13	49	38.2%	19.1%
破綻先⑥		1	1	0	1	100.0%	0.0%
小計 (②～⑥の計)		244	100	37	168	41.0%	15.2%
合 計		305	108	37	174	35.4%	12.1%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成 26 年 3 月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供

J Aバンク新潟では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 負債整理資金による軽減支援

J Aバンク新潟では、農業者の経営再建を支援するため、負債整理のための資金を取り扱っています。

【平成 26 年度負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	実行件数	実行金額	平成 27 年 3 月末残高
農家経済再建資金	21	111	2,489
畜産特別資金	0	0	44
土地改良負担金対策資金	7	78	1,352
農業経営負担軽減支援資金	1	33	93
その他	0	0	105
合 計	29	222	4,083

(注)・農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

・畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

(2) アグリビジネス投資育成株式会社による出資等、官民ファンドの活用

J Aバンク新潟では、お客さまの資金調達手段の一つとして、J Aバンクが創設した農業法人育成のための資本供与の仕組みである「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」による出資を提案しています。

平成 26 年度には、県内農業法人の資本調達ニーズに対応するため、「アグリシードファンド」で 1 件、6 百万円の出資、「担い手経営体応援ファンド」で 1 件、20 百万円の出資を実施し、累計 5 件、66 百万円となりました。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク新潟では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 災害被災者への支援

J Aバンク新潟では、各種自然災害の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

平成 26 年産米価格の下落および台風 11 号に起因する白穂被害等を受けられた方々への支援として「平成 26 年度緊急農業経営安定対策資金」を創設し対応しました。

(単位：件、百万円)

取組事例	J A 名	内 容	件数	貸付実行金額
平成 26 年度緊急農業 経営安定対策資金	J Aバンク 新潟	米価下落や台風等による農業 被害への対応として、J Aグル ープの利子補給による低利資 金を創設しました。	920	960

(2) J Aバンク食農教育応援事業の展開

J Aバンク新潟では、将来を担う子供たちの農業や自然環境、金融経済に対する理解を促進することを目的とした「J Aバンク食農教育応援事業」を展開しています。

主な取組みとして、J A等による子供を対象とした食農教育活動等への助成事業や、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」（小学校高学年向け、特別支援学校生向け）などの無償配布を実施しています。小学校高学年向け補助教材は県下の小学校 493 校へ約 21,810 セット、特別支援学校生向け補助教材は県下の小学校・特別支援学校 26 校へ約 109 セットを贈呈し、各学校において授業等に活用されています。

また、県下 J Aでは、下表のような食農教育などの様々な実践活動に取り組んでいます。

【J Aバンク食農教育応援事業による活動内容】

J A名	活動名	活動内容
J A新潟市	農業体験作文コンクール	J A管内小・中学生、特別支援学校生に対し農業体験学習「学校教育田」の実体験に基づいた作文コンクールを実施。
J A新潟みらい	あぐりスクール	J A管内の小学生を対象に、地産地消の理解を深めてもらうため、農業体験や調理実習等を実施。
	親子米作り体験	小学生親子を対象に、米作りに携わってもらい、お米の収穫の大変さを理解し、地場産のおいしさを味わってもらう。
	食農食育出前授業	J A管内の小学校を対象に、食農教育を実施後、地場産食材にこだわった給食の提供や調理実習を実施。
	親子米粉調理教室	小学生親子を対象に米粉調理教室を実施。
	食農食育に関する図書、食農食育カレンダーの配付	J A管内小学校へ毎月「ちゃぐりん」を贈呈。 J A管内小学校を対象に図画コンクールを実施し、入選作品をカレンダーにして管内小学校へ配付。
	親子収穫体験（わくわくみらい倶楽部）	J A管内の小学生以下の親子を対象に、収穫体験と調理実習、そば打ち体験を実施し、農業への理解を深めてもらう。
J A越後中央	農業体験スクール	J A管内の保育園・小中学校を対象に、学校教育田の田植え、稲刈りの指導を実施。
	農業施設見学による農業体験学習	J A農業施設見学およびトマト等の野菜収穫体験を実施。
J Aにいがた南蒲	なんかんたんけん隊（いちい編）	J A管内小学生親子を対象に、地域農業を理解し、産地へのこだわりなどを発見してもらうことを目的とした農業体験バスツアーを実施。
	校外学習活動	横浜市の小学生に対し田んぼや農業施設見学を実施。
	なんかん青年部まるごと農業体験ツアー	小学生親子を対象に、農産物の生産現場から流通、販売まで一連の流れを見学・体験するバスツアーを実施。
	親子で楽しむ農業体験&料理教室	小学生親子を対象に、農業体験を通じ地域の農産物への理解を深めると共に、収穫した農産物で調理実習を実施。
	田上の農業を学ぼう！～農育ノーライフ～	小学生親子を対象に農業への理解を深めてもらうため、農作業、収穫体験を実施。
	おやこ農業体験	J A管内の園児～小学生親子を対象に地場農産物に興味・関心を持ってもらうために農産物の収穫体験を実施。
	J A管内小中学校出前授業および合格祈願米の贈呈	J A管内小中学校にて出前授業を実施。中学3年生に対しては「難関（南蒲）突破米」を贈呈。
J A越後ながおか	食農食育に関する図書贈呈	J A管内小学校へ毎月「ちゃぐりん」、小学生向け料理本を贈呈。
	学校教育田	田植え、稲刈り体験等を通じて、農業・食への関心を高める。

J A 越後ながおか	農業体験壁新聞 キッズクイズラリー	農業祭りで、小学校で取組んだ農業体験を更に深く理解してもらうため、壁新聞を作成してもらった。また、小学生向けに地産地消や、農業の理解を深めてもらうためのクイズラリーを実施。
	さつまいも体験農園	小学生以下の親子を対象として、さつまいもの定植、収穫を通じ土に触れる楽しさを知ってもらう。
J A 北魚沼	食農教育絵本の配布	広神中学校文化部作成のゆるキャラ「米々じいちゃん」の絵本を作成し、米消費拡大と米を中心とした日本食の良さを理解してもらう。
J A 魚沼みなみ	夏休みこども料理教室	J A 管内の小学 3～4 年生を対象に地元の食材を使った料理教室を開催。
	グリーンスクール	J A 管内の小学生を対象に、環境・食糧・農業への理解を深めることを目的に、農作業体験や調理実習などを実施。
J A 十日町	どろんこキッズスクール	地元小学校 4～6 年生を対象に年間 9 回シリーズで農業・調理体験スクールを実施。
	料理教室	親子を対象に地元農畜産物や米粉を使った料理教室を実施。
J A 津南町	津南町農業体験学習推進協議会（どろんこ学習）	J A 管内の小学校が行っている食農教育活動(花卉・野菜栽培学習、学校田)に対して J A 津南町が指導、活動費助成を実施。
J A えちご上越	ちゃぐりん道場	J A 管内小学生を対象に野菜収穫、料理教室等を実施
J A ひすい	そば種まき・そば打ち体験	そばの種蒔きと収穫したそば粉を使ってそば打ち体験を実施。食と農の大切さを知ってもらう。
	大豆栽培豆腐作り体験	大豆を栽培し、その大豆で豆腐作りを行い、食と農の大切さを知ってもらう。
	稲作農業体験	保育園児を対象に田植え、稲刈り体験を実施し、食と農の大切さを知ってもらう。
新潟中央会	第 39 回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール	次代を担う子供たちに農業の多面的機能とごはん食の重要性等について理解を深めてもらう。
新潟県信連	食や農業の未来とわたしの未来を考える	中学生を対象に「食や農業の未来とわたしの未来を考える」をテーマとし、ニンジンの収穫、調理体験、グループワークを実施した N P O 法人みらいず works に協賛。



「食農教育出前授業の様子」

(3) その他の地域貢献活動

J Aバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い貢献活動を展開しています。

○ 「エコ定期貯金」の受入を通じた、環境保全団体への寄付金の贈呈

地域の自然環境保護を支援する取組みとして、受入残高の 0.05%相当額を寄付し、郷土の自然環境保護に貢献する「エコ定期貯金」の取扱いをしています。

多くのお客様から趣旨にご賛同いただいた結果、平成 26 年度は 2,258,584 円を公益社団法人「にいがた緑の百年物語緑化推進委員会」に寄付することができました。

当会では以下の取組みも行なっています。

○ 公益信託「J Aバンク新潟県信連創立 50 周年記念・ホームヘルパー支援基金」

新潟県内の社会福祉法人やボランティア団体等を助成対象者とし、ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備等に対し助成しています。

○ 「キッズスポーツクリニック」への特別協賛

「スポーツを通じた青少年の健全育成」の趣旨に賛同し、アルビレックス新潟（サッカー）及び新潟アルビレックス BB（バスケットボール）が開催する「キッズスポーツクリニック」への特別協賛を行っています。



「アルビレックス新潟のコーチ・スタッフによる
保育園・幼稚園児向けのサッカー教室の様子」



「新潟アルビレックス BB の選手による
小学生向けバスケットボール教室の様子」

○ 「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛

公益財団法人新潟市芸術文化振興財団が主催する「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛を行うとともに、文化交流の振興を支援する目的から、県内在住の留学生を公演に招待し日本の伝統文化に触れてもらいました。また、東日本大震災の影響で県外から新潟県に避難している方々も招待しました。

○ エコキャップ運動への参加

ペットボトルのキャップを集め世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加しています。

○ 環境への取組み

J A新潟ビル内のLED照明への切替えによる省エネ化、電気自動車等エコカーの業務車両への導入、クールビズの実施など、節電への対応や地球温暖化防止策に積極的に取り組んでいます。

○ 役職員によるボランティア活動への参加

新潟市が主催する地域清掃活動に毎年参加しています。また、新潟県赤十字血液センターのご協力により、団体献血を年2回実施しています。



「献血の様子」

○ 地域行事への参加

「新潟まつり大民謡流し」等の地域行事に地域の一員として積極的に参加し、地域の皆様との交流を大切にしています。

以上